

ラグビー・関東大学リーグ戦（2部） 1部復帰へ連勝中！



▲スクラムを組む専大フィフティーン

関東大学ラグビーリーグ戦（2部）で、1部復帰に向け着実に勝ち星を重ねている専大。開幕から5戦全勝（11月10日現在）と好調を維持している。

【対埼玉工大・10月19日（79-19）】

前半16分に相手のトライを許すが、西真（商2・大阪工大高）のトライを皮切りに攻撃が爆発し、大勝した。

【対東洋大・10月26日（70-7）】

前半5分、中川祐司（経済4・秋田工高）のトライで流れは専大へ。後半に相手の速攻から1本のトライを奪われるが、完勝した。

【対国士舘大・11月1日（65-5）】

相手の積極的な攻撃に攻めあぐねるものの、後半からは専大らしいパス回しやサイド攻撃を展開、相手の攻撃を抑えた。

仲宗根弘明監督が「攻撃の流れを作れるようになってきた」と語る通り、チームは前進している。1部のピッチはすぐそこにある。（川本麻美・文2）

【ニュース専修11月号15面】

部活拝見 体育会ソフトテニス部 3シーズンで5部から2部昇格



▲昇格を果たして喜ぶ部員

快進撃は昨秋の5部優勝から始まった。今春(4部)、今秋(3部)と優勝・昇格を重ね、10月19日に行われた2、3部入れ替え戦では順天堂大に勝利し、3シーズンで2部まで昇りつめた。1920年創部と体育会の中で最も歴史があり、輝かしい戦績を残しているが、苦しいシーズンが続いていた。近年、復活を果たした背景には伝統にしばられない新しい体育会の形があった。

「在学生にソフトテニス部の存在を知ってもらいたい」と言う大野純平主将(経済4・専大松戸高)の言葉には、背部寸前と言われた部を立て直した苦労が見える。永田和也主務(商3・上宮高)が「ラリー中の相手との駆け引き」と言うソフトテニスの魅力も硬式にはかなわず、部員が集まらない。リーグ戦はダブルス4組、シングルス1人の計9人で戦うため、試合にならず低迷が続いた。部員たちは出身高校の後輩に入部を呼びかけ、勢いを取り戻すきっかけを作った。現在、部員数は18人。

練習は授業を優先し、各自が都合の良い時間にテニスコート(生田野球場横)で、乱打や試合など主に実践練習に励む。日本のトッププレイヤーであった大木幸一監督(昭52年経済)と杉本猛コーチ(昭54商)の指導を受けながら、選手同士がレベルアップを図り成長し合っている。体育会の象徴である“厳しさ”や“上下関係”はなく、自主性にこだわったこともプラスに影響した。来春の1部昇格に期待が高まる。

ソフトテニス界の復活に一役買うのは彼らかもしれない。(染谷智子・文2)

【ニュース専修11月号15面】

男女とも総合優勝 ローラースケート・全日本学生

全日本学生ローラースケート選手権が10月3日から5日まで、長野県池田町のアルプス広場で行われ、専大は男女ともに総合優勝を果たした。男子は3年連続通算34回目。女子は2年ぶり5回目。

スピード部門とホッケー部門の両部門のポイントで総合順位を競うこの大会。男女ともにスピード部門で優勝、ホッケー部門でも4位の成績を残した。伊藤顕主将(経済4・保善高)は「コーチの指導でチームの雰囲気良くなり、“お互いがライバル”という意識を持って練習した成果が出たと思う。今の気持ちを忘れずに、さらに良いチームを作ってほしい」と後輩にエールを送った。(中村有希・法2)

【ニュース専修11月号15面】

平戸が「ベストポージャー賞」獲得 ボディビル・全日本学生

10月26日、大阪府の阪南大学GYCホールで全日本学生ボディビル選手権が開催された。

平戸義人(商4・長崎南山高)が8位に入賞し、ボディビル競技において最も輝かしい賞である「ベストポージャー賞」を獲得した。

また、同大会の予選として10月13日に行われた関東学生ボディビル選手権では団体で3位。個人では平戸が7位、松本智之(経済3・伊奈学園総合高)が8位、佐野智則(経済4・富士高)が16位に入った。(中村邦宏・商1)

【ニュース専修11月号15面】

レスリング・全日本学生グレコ 平澤（96kg級）が3位

レスリングの全日本大学グレコローマン選手権が10月9、10日、駒沢体育館で行われ、96kg級で平澤光秀（文4・霞ヶ浦高）が3位入賞を果たした。また、66kg級で山口徹馬（経済4・吹田高）が5位、120kg級で田中章仁（経済3・三井高）が7位に入賞した。

グレコではフリーと違い、下半身への攻撃が禁止されている。限られた選択肢の中でいかに自分のペースを作るか勝負を分ける。出場予定選手のケガによる繰り上がりでの出場となった平澤だが、試合を迎えると快進撃を見せ、見事な結果を残した。「せっかく勝ち進んだのだから優勝したかった。フリーでタイトルと取っていないのでどうしてもほしい」とさらなる向上を誓った。（高橋伸明・文2）

【ニュース専修11月号15面】

ボクシング・東京都アマチュア 舟山（ライト級）が優勝

東京都アマチュアボクシング選手権が10月4日から12日まで、日野自動車健保プラザほかで行われ、ライト級で舟山弘志（商2・花咲徳栄高）が優勝を果たし、11月に行われる全日本アマチュアボクシング選手権（19～23日、埼玉県大利根文化会館）への出場が決定した。また、フライ級でも岡田哲也（商3・三好高）が3位と健闘した。

軽やかなフットワークでトーナメントを制した舟山。「全日本での意気込みは？」の問いに「優勝です」とキッパリ。この力強い言葉に期待したい。（大野愛子・経済2）

【ニュース専修11月号15面】